

# 林大だより



第 87 号 令和 6 年 3 月 21 日

長野県林業大学校翌協会



令和 5 年度 卒 業 式

## 卒業によせて

翌検会 会長 今井 康貴



長野県林業大学第四十四期の皆様、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。多くの不安や心配を抱え入学式を迎えた日から早いもので二年が過ぎようとしています。その不安も学びの中で、先生方や仲間と共に解決してきたことでしょう。二十人全員が無事に卒業式を迎えることができるのも、中島校長先生を始め、先生方並びに関係者の皆様、また地域の皆様のお力添えがあったからこそと思っております。保護者を代表して感謝申し上げます。二年間大変お世話になりました。

林業大学は、林業の専門的な知識・技術を身に着け、指導的な役割を果たす技術者及び林業後継者となる有能な人材を養成することを目的と

して、「全寮制」による行学一致の総合教育を行っているのが特徴です。ここでの二年間の学びの中で、多くの専門的な知識を身に着け、一年時の屋久島研修に始まり、二年時の北海道研修、上松技術専門校・岐阜森林文化アカデミー校・木曽おもちゃ美術館等、林業に関わる多くの場所での研修や、山での実践から林業のもつ多様性を学び得たと思えます。

知識や技術を学ぶ学校生活だけでなく、「全寮制」という他では味わえない経験から、団体生活の中での協調性や人を思いやる心を育むことができたのではないのでしょうか。寮生活を通じ、お互いの個性を認め合い、絆が深まり共に過ごした時間はかけがえない財産となるはずで、卒業生の皆様は四月からそれぞれの選んだ場所で新たな一歩を踏み出します。ここで出会えた全ての方々への感謝を忘れず、それぞれの道を力強く、一歩一歩踏みしめながら

歩んで行って下さい。最後になります。新型コロナウイルスの影響により、先生方を始め関係者の皆様方には、子どもたちのために多くのご心配、ご配慮をいただきありがとうございます。この素晴らしい林業大学校と翌検会の更なるご発展をお祈りしております。

## 生き抜く力

長野県林業大学校 校長 中島 治



子どもが生まれた当時、とにかく将来自分の力で世の中を生き抜くには、後何でもいいから思い通りに生きていく。林大生四十名にも、卒業までの二年間で、少しでもこの「生き抜く力」を身につけてもらいたいと思っています。



とある朝のラジオ体操（10月）

「抜く力」が物を言うことでしょうか。本校での学びは、この「力」の内のほんの一部を構成するに過ぎないものですが、それでも決して軽いものでもありません。各人が過ごした二年間が、これからの人生における一人一人の「力」につながることを心より願って止みません。

自分自身が社会人になり立ての頃のことは既に忘れてしまいましたが、自分で稼いで生活していくことは、楽しい反面、厳しいことも有ります。誰しもが、長い人生の間には、仕事や私生活での失敗や挫折に多かれ少なかれ必ず出くわすことでしょう。「世の中には失敗を全くしない人間など一人もいない」ということは断言できます。人生失敗してからの大事であり、その失敗を如何にその後を生かせるかということだと思えます。このことだけは忘れないでいて欲しいです。

どんな場面でも自分を失わずに行動できる者、ことごとく周りに流されて動く者、逆に周囲には構わず常に我が道を歩む者、人の指摘に素直に聞くことができる者等など、様々な学生が一つ屋根の下で、各々の個性を發揮しながら学校生活を送っています。その内、二学年二十名は、大学進学者を除き、この春、それぞれ自分が選択した道で社会人として自活することになります。そこでは、自身が今まで培ってきた「生き

抜く力」が物言ひを言うことではない。昨年四月に赴任して以来、はや一年が過ぎようとしています。県職員生活の最後に林大の生徒達と過ごしたこの期間は、私にとっ

ました。  
最後になりましたが、学生及び保護者を始めとする関係者の皆様に、心より感謝を申し上げるとともに、卒業された二十名の皆さんの今後の活躍をお祈りしております。頑張れ林大生！

## 森林・林業の転換期に

### 果敢にチャレンジを

長野県林務部長 須藤 俊一



ついた規律性、協調性、友人との絆や思いやりの気持が、これからの社会人生活の大切な基礎となることでしょう。

四十四期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは貴重な二年間の学生生活は大半がコロナ禍だったことから、行事の中止や変更、日常の行動制限など何かと制約の多い学生生活を送られました。二〇二三年五月の新型コロナウイルスの五類感染症移行後、大学内外の生活も以前の状況に戻りつつあります。

さて、長野県の森林資源は、先人たちのためまぬ努力により育成が進められた結果、民有林人工林の約八割が五十年生を超えており、利用可能な時期を迎えています。一方で、二十年生以下の若い人工林は非常に少ないことから、現在、県では「伐って、植えて、育てる」といった本来の森林・林業のサイクルを回す仕組みづくりを進めているところ。充実した森林資源を循環的に用い、森林の若返りを通じた二酸化炭素の吸収を図りつつ、持続的な木材供給が可能な森林づくりを進めていくこ

とにより、様々な機能が高度に発揮される豊かな森林を形成していくことが求められています。

また、森林づくりや林業活動を継続していくためには、森林資源や森林空間の多面的な利活用により地域の価値を高めるとともに、地域に暮らす人々を含めたより多くの人々が森林の恩恵を実感し、森林に対する理解や関心を深

## 林大パワーで未来にはばたけ！

中部森林管理局 局長 今泉 裕治



めていくことも重要です。持続可能な社会を実現するためには、林業に何ができるのか、森林・林業の転換期にあつて、若く柔軟な考え方を持つ皆さんへの期待は大きく、果敢にチャレンジすることが求められています。林業大学校で学んだ知識や技術を最大限に発揮し、次代の担い手として大いに活躍されることを心より期待します。

今日私たちが住むこの世界は、貧富の格差等の経済・社会的問題や環境問題、さらには紛争なども各地で起こり、とても複雑で難しい世界となつています。森林・林業は、そうした問題の解決に大きく貢献できると期待されていますが、それは過去の知識や技術だけで成し得るものではなく、森林・林業関係者だけでなく、森林・林業関係者だけでなく進められるものでもありません。ましてや、私たち一人一人にできることはとてもちっぽけなことに過ぎません。

長野県林業大学校二年生の皆さん、このたびはご卒業おめでとうございます。今、皆さんの胸に去来するものは、二年間を過ごした林大での楽しかった（苦しかった）日々の思い出や、ここを去る寂しさでしょうか、あるいは、これから歩み出す自らの進路への希望や不安でしょうか？

これまで林大を単立っていった諸先輩も、希望と不安を抱きながら、多くが森林・林業関連のキャリアを選択し、皆、欠けがえのない人材（まさしく「松」となつて活躍しておられます。皆さんも、林大の卒業生としての誇りと自信を持ち、安心して先輩たちの仲間入りをしていただきたいと思ひます。

そこで皆さんにお願いしたいことは、今後も謙虚に学ぶ姿勢を忘れず、新しいことにチャレンジし続けていただきたいということです。

「人は微力ではあるが無力ではない」という名言があります。林大で培ったパワーを結集し、「難しい」↓「チャレンジしがいがある」とポジティブ変換して、未来に向けてはばたいてください。活躍を期待しています！

学生のページ

# あすなるの呟

つぶやき

## 学校・寮生活から

### 一年を振り返って



1 学年 衛藤 大空

長野県林業大学校に入学して早くも一年が経ちました。入学当初は寮生活や学校生活にうまく馴染めず不安を感じていましたが、寮の生活や授業面でも、林大生に助けられました。一般教養から専門的な科目まで幅広く学びました。また、授業面以外でも、諦めかけようとしていた時に仲間と頑張ったり、寮生活でも、一人では気づけなかったようなことを率先してやるのが出来るようになったりと、人として大きく成長することが出来ました。

来年度からは先輩になるの  
不安ですが、今まで先輩方に教えてもらったことが自分でも出来るように頑張ろうと思います。また、就職先を決める年にもなるので、今以上に色々なことに挑戦して、将来自分がしたいことに向かって行動していきたいと思っています。

### 一年を振り返って



1 学年 雲野 希勇

長野県林業大学校に入学して早くも一年が経ちました。入学当初は寮という環境でうまくやっていけないのか不安でしたが、仲間にも恵まれて無事に一年を終えることが出来ました。

林大の寮で生活した一年間  
様々な体験をすることが出来ました。慣れない環境にストレスを感じたり、時には仲間同士でぶつかることもありましたが、そういった環境の中で生活出来ているからこそ、これから社会に出ても通用するようなスキルを身に付けることが出来、人間性を大きく成長させることが出来て



1 学年 10月 特用林産学実習

いるのだと感じます。来年度からは二年生となり、自分の進路等についても決めていかなければなりません。人生最後の学生生活を楽しくむとともに、沢山のことを勉強して身に付け、一人前の大人になれるように頑張りたいです。

### 一年を振り返って



1 学年 佐野 聖

林業大学校に入学して一年が経ちました。新しい環境、初めての寮生活、専門授業など、多くの不安がありました。が、あつという間に時間が過ぎました。

私は新潟県から来て、木曾が寒いところだということとは分かっていましたが、冬の寒さはとても厳しく、日々の体調管理は大事なことだと思いました。また、寮生活は、ずっと友達というため、毎日楽しい生活を過ごさせてもらいました。日々色々なことが起こるのは、寮生活ならではのことだと思っています。

また授業では、専門科目もありました。林業の知識はほぼ無かったため、初めて聴く内容が殆どでしたが、実習での授業も多くあり、楽しく学ぶことが出来ました。チェンソーの授業では、周りの上手な友達や先輩方の操作を見



1学年 11月 体験研修（檜皮採取）

林業大学校に入學して約一年が経とうとしています。初めは何もかもが不安で、ここで学んでいけるのか心配でした。四月に屋久島への研修旅行があり、そこで友人関係を作ることができました。そこから少しずつ学校や寮生活にも慣れ、友達ともたくさん話せるようになりました。五月から本格的に授業が始まり、演習林や林業総合センターでの実習がありました。十月には「トップガン研修」という研修で、伐倒の仕方

で、とても刺激を受けました。実習の授業は様々なことを体験出来て、とても勉強になりました。  
もうすぐ二年生となり、学校生活も残り少なくなりますが、学習面・生活面でも怠らずに、後悔の無い学生生活を過ごしていけるように頑張ります。



1学年 長谷川 陸也

一年を振り返って

やチェーンソーの安全な使い方を学んだり、学友と競いながらチェーンソーの技術を高めていきました。  
これからまだまだ資格取得の実習やボランティア活動もあるので、積極的に参加したいと思っています。  
あつという間の一年でしたが、残りの一年、楽しく充実した林大生活を送りたいと思います。二年生になると新しい学びや学習があり、また将来に向けて就職活動にもしっかり取り組みたいです。



1学年 宮原 侑生

一年間をふり返って

長野県林業大学校に入學して約一年が経とうとしています。私がこの学校に入學するきっかけになったのは、高校生時代の先生からの勧めでした。高校ではコース制の授業があり、私は里山コースに入りました。そのコースで学ん



1学年 11月 林業概論（水木沢天然林）

でいる中で、「自然が好き」ということが、「自然の中で働いてみたい」ということに変わりました。そして現在、林業について学びながら、楽しい学校生活を送っています。

した。実習では現場に行き、治山事業や森林調査を实地に学びました。実際に現場を見られるというのはとても貴重なことなので、良い経験になりました。  
四月に入學してからあつという間だったので、自分もつ進路に目標を持って、残りの期間を大切に過ごしていきたいと思っています。

専門の教科だけではなく、英語や数学などの一般教科、文学や社会学など、今まで学んだことのない単元もあります。

林大生活二年を  
振り返って



2学年 北原 啓斗

林業大学校に入学して、あつという間に二年が経ちました。入学当初は将来のことや人間関係、寮生活など不安に思うことが沢山ありました。しかし今では色々なことに慣れて、あつという間に卒業が近づいていま

と、新しい仲間との初めての旅行だった屋久島研修や、一年生二年生で協力して成功させた寮祭、林大最高の思い出となった北海道研修など、林大での二年間は楽しい思い出が沢山ありました。それと同時に、自分の将来の夢である「林業をやりたい」という夢を叶えられるよ

うな授業が数多くありました。そして、この学校での学習が実り、地元の上伊那那森林組合に就職することが出来ました。

この二年間、私は長野県林業大学校に入学したことで、多くの出会いと多くの学びを得ることが出来ました。長野林大に行くという私の選択は、人生において最高の選択だったと実感しています。

最後に、家族、先生方、林大の仲間たちに感謝申し上げます。本当に最高の時間をありがとうございました。



2学年 10月 木曾駒登山

一期一会



2学年 末次 譲

私にはこの二年間で、たくさんのお出会いがありました。地域行事やインターンシップ等でたくさん学び、習得することができました。木曾の地域行事では町民ボランティアが集いみんなで協力し合い、成功させるという行事にも参加することができ、学校の授業だけでは学ぶこと

二年間を振り返って



2学年 長瀬 良太

林大に入学してから早くも二年が経ちました。入学当初は初めての寮生活や、普通科からの入学だったため、初めて学ぶ林業のことなど、自分

のできないことも経験することができました。一月には福岡県の林業機械アタッチメントを製作する「松本システムエンジニアリング」へ行き、設計から製作までの過程を見せていただいて、松本社長さんをはじめ、多くの社員の皆様とお話しをすることができました。学生生活にしかできないことがたくさんあるのだ

など、学生生活の終盤になって学びました。これまで出会ってきた人、

にとつての「初めて」がたくさんあり、とても不安でした。しかし、そんな不安もいつの間にか無くなっていました。

一年次は、初めて学ぶ沢山のことや多くの実習を経験し、気が付いたら一年経っていました。二年次では、就職活動や寮祭運営、三林大などでとても忙しく、あつという間に卒業です。ただ、この二年間は毎日が充実し、とても楽しかった日々であり、林大



2学年 10月 林業架線学(実習)

これから出会う人と支え合いながら、これからも頑張っていきたいです。

良かったと思っています。私も四月から社会人です。林大で教わったことを最大限に活かし、今後の林業をさらに発展させられるよう、精一杯頑張ります。そして、両親をはじめ、先生方、地域の皆様、林大のみんななど、これまで私を支えてくださった方々にとっても感謝しています。本当にありがとうございます。

長野県林業大学校に入學し、卒業まであと一ヶ月となりました。これまでの日々はともあつという間だったと感じており、この生活で得られたものはとても多くあると



2学年 茂木 智哉

## 二年間



2学年 11月 王滝村総合実習

寮では、一つの学年が二十人、計四十人のメンバーで一緒に生活。最初は不安がありました。今ではこの生活に慣れ明るく楽しい毎日を過ごしています。卒業まであと少しですが、一日一日を大切に最後の学生生活を楽しみたいと思います。

は、北海道と長野県の林業の違いを学び、規模の大きさを実感することができました。色々な研修をしていく中で、絆もより深まったと感じました。また、北海道研修で

思っています。林大では貴重な体験をすることができ、その中でも忘れられないのが屋久島研修と北海道研修です。屋久島研修は林大に入學してからすぐにあり、屋久島の自然の豊かさや美しさを実感することができました。また、北



2学年 1月 山の環境学(乗鞍高原)



2学年 1月 そば打ち体験

## 目標をもって進む



2学年 輪湖 知治

私は、在学中何か一つ身に付けて卒業しようとして学生生活を始めました。林大では一人ずつチェーンソーが貸与され、練習環境としては天国だったため、卒業までに立木を伐倒出来るくらいにはなる

うと誓い、放課後を使ってチェーンソーの腕を磨く伐倒班に入りました。本格的な毎日の練習は就活が終わった二年の夏休み明けからでしたが、伐倒班の先輩方に色々教えていただき、最後は鳥取県でのJLCCに学校代表として出場させていただきました。また、王滝村有林でのカラマツの伐倒実習ではどれも狙った方向に倒すことが出来、自信ができました。

四月から北陸地方で砂防・河川に係る仕事に就く予定ですが、新年早々の能登半島地震により各地で土砂崩れや道路寸断が起こりました。元々の夢が叶わず現在の就職先に決まり、心のどこかに不満や不安がありました。これをきっかけに、自分の仕事が被災地復興や被災地の方々助けになるのなら、自信をもって精一杯頑張らねばと気持ちがあっ切れました。

「人間万事塞翁が馬」と言いますが、何が幸福で何が不幸かはすぐにはわからないので、卒業しても置かれた状況をしっかり見つめて日々を送っていきたいです。

保護者の  
ページ

# 絵 の

# 一 言

## 今を楽しんで

大 塚 英 司



息子が林大へ入学して、早いもので一年が過ぎようとしています。

コロナ禍での高校生活とは一転して、寮での集団生活、実習授業や様々な研修など、とても貴重な経験をしていると話してくれます。地域交流では皆様が温かく受け入れて下さっている様子で、感謝しがあります。

高校進学を決める時、環境問題や造園に興味を持ち学びたいと受験し、入学後の早い時期に林大へ進みたいと目標にしたことを思い出します。好奇心旺盛な息子なので、好きなことを学ぶ中で、何を仕事にするべきか一つに決めら

れずに悩むこともあるでしょうが、この先身に付ける知識や経験は、どんな道に進んでも決して無駄になることは無いと思います。

二年生になると一段と専門的な学習が増えて忙しくなるかと思いますが、出会えた仲間との時間も大切に、林大生活を自分らしく笑顔で楽しんでほしいと願っています。

## 仲間との時間を大切に

小 瀬 木 文 武



この間、林大の門をくぐったばかりと思っていたら、早くも一年が経とうとしています。

木曾青峰高校の森林環境科に進学し、農業クラブ(F.F

J) 全国大会などの活動を通してお世話になった先生の影響もあってか、おのずと林大への進学を選びました。

初めは寮生活に不安を感じていたようですが、自宅に帰ってくるたびに、初めの不安はどこへいったのかというぐらいい、林大での出来事や寮生活などを楽しそうに話をしてくれます。

息子はどちらかというと内向的な性格でしたが、寮生活を通じて地域の活動などにも参加させていただき、この一年で少しずつですが頼もしく成長していると感じます。これもひとえに、温かく見守り指導くださった先生方、優しい先輩方や寮母さん、良き同級生の皆様のおかげと感謝しております。

将来は、親と同じ公務員(森林管理局)の道を目指しているようですが、残りの一年、大いに学び活動し、その道ばかりに拘ることなく幅広くに自分の進む道を見つけてもらいたいです。何より、仲間との時間を大切に沢山の思い出を作って学生生活を楽しくして下さい。

## 頑張り宝

福 田 優



10月 トップガン研修

最初にこの場をお借りして、ご指導いただいている先生方、また、共に歩んでくれている林大生の皆さんに感謝と御礼を申し上げます。

高校三年の就職活動中、進路で悩んでいる時に、ある会社の社長さんに林業大学校を勧められました。林業についてほぼゼロからのスタートに不安もありましたが、入学を





2学年 11月 森林管理コース (治山溪流測量)

決めました。

入学して早くも一年が過ぎますが、帰ってくるたびに楽しそうに学校や地域の話をするところをみて、林大への入学を勧めてもらったことに本当に感謝しています。

本当にゼロからのスタートで、他の生徒さんより何もかもが遅れているのではと心配していましたが、本人の性格なのか、周りに恵まれているのか、色々なことを経験させてもらい、遅いながらも一回りも二回りも大きくなった(体形も...)と思っています。あと一年、春からは後輩も

できるので、さらに大きく強くなってもらいたいと思います。また、残りの学校生活、誰にも負けない思い出を作ってほしいと思っています。頑張れ!!

進む道に幸あれ

渡辺 芳宏



「林業やりたい」「えっ?林業?...」

二年ほど前、息子からの突然の告白。令和元年東日本台風の影響を目的に、地域防災や都市計画に興味を持って、土木分野の道に進んでいたの...。より自然に近い、より上流に近い業種に魅力を感じたようで、理解はできるけど親はほっと一息ついたところだったよ...。それでも、決意を固

感謝

今井 奈々



木曾に生まれ育ち、夏は川遊び、木の実を食し、裸足で飛び回った幼少期。元氣一杯だった息子は、元氣一杯に大きくなりました。林業大へ行くこと決めるときは、林業の道を選び極めていくのだと、胸が熱くなる思いがしたのを覚えています。寮生活に

なじめるかと、不安一杯だった入学式、今では多くの友達に恵まれ、素敵な寮での二年間を終えようとしています。林業大では、多くの実習や研修を経験し、学びの多い充実した時間を過ごしたと思います。この学校へ行かなければ、絶対に経験できなかったことや学べなかったことが多くあったことでしょう。

息子と向き合い続けてくださった先生方、いつも一緒にいてくれた仲間たち、本当にありがとうございました。この縁に感謝し、日本の木育を推し進めて行って下さい。応援しています。皆様、ご安全に!!

息子よ、そして林大生の皆さん、森林づくりは国をつくることに直接繋がっています。一生を懸けるに相応しい仕事だと思えます。仲間たちと助け合いながらがんばってください。期待しています。

頼もしく感じています。粘り強くご指導いただいている先生方をはじめ、お世話いただいている皆様にあらためて厚く御礼申し上げます。

御礼

佐々木 幸枝



この度、わたしの大切な長男が無事に卒業することができました。本当にありがとうございました。ごさいました。

長野県へ呼んでいただいた木曾南部森林組合様。上司の方々の丁寧な指導と、頼もしさに安心して息子を送り出すことができました。ヒロは普通科の高校を卒業し、体力も知識もありません、大きなリュックを背負い、暑い夏も寒い冬も山に登っていきました。疲労と社会へ出た不安感とで口数が減っていきましたが、『山は楽しい。木はすごい!』と、毎日山で何をしていたか、どんなことがあったかを楽しげに話してくれました。ただ、何回か自分のミスで怪我をしそうになりヒヤリとしたことがあったり、厳しい林業の現場を知り、何とかし

たいと思い始めたようでした。

それから、林業のことをすっかり知りたいたと長野県林業大学校に入学しました。全寮制ということで、どうなることかと思いましたが、先生方や同期の学生さん方にも恵まれて、沢山の知識と経験と思い出を得ることができました。母として、感謝しかあり

ません。ありがとうございます。ヒロくんへ。沢山の我慢と辛い思いをさせてきてしまい、ごめんね。何でもひとりで行けるようになりましただね。あとは自分に自信をもって、前へ前へと進んでいってください。応援してます。がんばれ!!

### 卒業にあたって

関口 剛



息子が高校生の時、そろそろ進路について本気で相談しなければと思っていたところ、進路については林業大学校一択だと聞き、私は慌てて林大を検索していたことを思い出します。

中学の頃から、夏はマウンテンバイクで山の中をくんだり、冬はバックカントリやフリーライドスキーに明け暮

れ、自然の中で体を使った遊びをしていたことが進路にも影響したのだろうと感じています。

在学中は、貴重な実習や研修、講師先生方からの学びから、林産物で商品加工・販売するまでに至り、様々なことに自信を持つて取り組める人間に成長したと感じています。

二年という短い間でしたが、先生方、職員の皆様には大変お世話になりました。林大に在学したことで将来のビジョンが少し見えてきたようで、卒業、そして就職できることに感謝申し上げます。

まもなく社会人となりますが、林大での経験を自信に、これからの人生を歩んでいてほしいと思います。

### 人新世と

### 地球温暖化

星 研一



人類の活動は宇宙船地球号に影響を与えるまでに大きくなったようだ。人類が地球の地質や生態系に与えた影響に注目した現代を含む地質時代区分を「人新世」と呼ぶらしい。その影響とは、地球温暖化等の気候変動、生物多様性喪失、人工物質増大、化石燃料燃焼や核実験による堆積物変化などだ。

昨年夏、自転車通勤で軽い熱中症を三回経験した。そして観測史上最高に暑い、まさに地球沸騰の年となった。この地球温暖化の原因として人類が放出してきたCO<sub>2</sub>、その半分はこの三十年に放出したものだという。毎年CO<sub>2</sub>を三六〇億トン排出し、それを海洋が一〇〇億トン、陸上植物が七〇億トン吸収し、残りの一九〇億トンが大気中に

蓄積する。では地球温暖化ストッパに向けて如何にCO<sub>2</sub>を削減するのか？一帯帯が一年間にCO<sub>2</sub>を、三、七〇〇kg排出している。もしこれを三十六〜四十年生の杉の一年間の吸収量で換算すると、杉四二〇本の吸収量が必要になる。多くの植林のみならず、私たちの生活様式そのものを見直すことが求められているのだと思う。

### キャリアハイを目指して

森田 昌伸



一度社会人を経験してからのやり直し。本人が一番苦しかったことと思います。卒業おめでとう。

自然が大好きで、自然を相手にできる仕事を選んで進んだ道でしたが、キャリアハイを目指し、自分の知識を増や



2学年 1月 森林資源活用コース (開田高原)

すために入学した林大でやり遂げた結果、希望の就職先を見つけ、これから頑張っていくことだろうと思います。これからも、挫折を繰り返して人生を渡っていくことでしようが、林大で学んだことや、それ以前の仕事での経験、林大での仲間との絆を武器にして乗り切ってください。

これからの時代、林業は非常に大事な仕事になってきます。未来を照らす人材の一人として期待しています。

最後になりますが、林大の先生方や学校職員の皆様、また翌松会の役員の皆様のご助力に対して感謝申し上げます。

人とのつながりと  
四つの「ち」



卒業生（第五期）  
中宿 恵司  
（長野県松本地域  
振興局林務課 課長）

新たなスタートラインに立つ四十四期の皆さん、ご家族の皆様、長野県林業大学校へ卒業、誠におめでとうござい  
ます。

コロナ禍で勉学や生活にも規制や変化が生じる中で、林

四十四期生に  
幸あれ！



二学年担任  
小牧 成美

私と四十四期生との一年間はあつという間でした。一年次に担任をされた丸山先生からの引継ぎでは「四十四期生は、素直な良い子ばかりですよ。」そんな言葉をかけてい

檜のアドバイス

大で過ごした濃密な二年間は、とても大変だったのではないかとお察しいたします。

私が林大に入学した昭和五十八年には、台風で寮の目の前を流れる黒川が越水して講堂に避難したことや、木曾山林高校（現木曾青峰高校）野球部との本気の練習試合、バイクでの峠ローリング、みこしまくりなど、多様で気さくな先輩や同期の皆さんとの学習や寮生活、遊びやバイトを通じた、多様な「人とのつながり」により、とても充実

した日々の二年間を林大で過ごさせていただきました。

卒業後、昭和六十年に県に奉職以来、林業普及や県産材の利用促進などのソフト畑を中心に務め、体験学習の森の設置、稲荷山養護学校の建設、信州F・POWERプロジェクトの推進など、通常では経験できないようなプロジェクトも担当させていただきましたが、今考えますと林大の二年間で培った、横と縦の人のつながりやチームワークの輪がベースとなって、

様々な場面で活かしてこられたと強く感じております。

もう一点、私が県林務部OBの林業普及の上司から指導された一言を、皆様にもお贈りしたいと思います。  
地域の森林・林業をデザインする普及指導員は、「むち」「けち」「ぐち」「やきもち」の四つの「ち」を持っていては、人はついてこない。普及客体と心がつながった指導を行うには、四つの「ち」を排除して日々精進することが必要だと。

社会に出ると、様々な場面

ただきました。二年生になると就職活動が始まり、内定をもらえるかどうか不安な毎日を通じた学生も多かったかと思えます。無事年内に全員の内定がもたらえたことに安堵したところです。

「林大は、自分が思っていたのと違った。」そんな言葉をもらす学生もいて、非常に悲しい思いもしました。しかし、自分で選んだ道だから、このまま残るのも自分、辞め

るのも自分、覚悟と責任をもって決断するように伝えました。幸いに、残りの期間を無事過ごすことができれば、全員揃って卒業できそうです。

二年生のみなさん、林大で学んだことは無駄にはなりませんよ。林大生の良いところを存分に発揮して、職場で活躍してください。一つ屋根の下で過ごす寮生活は、良くも悪くも濃い二年間だったは

『チームワークが大切。自分中心では進まない。周りを良く見て動いてほしい。』と。

近年、林大への求人件数も増え、林業従事者を取り巻く

環境も大きく変化している様に思えます。『林大生が来てくれて良かった。頑張っているよ。』そんな一言をたくさん聞けることを楽しみにしています。

四十四期のみなさん、春から新しい生活が始まりますね。自己管理をしっかりして元気に働きましょう。そして、支えてくれる人への感謝の気持ちを忘れずに過ごしましょう。いつまでも応援しています。

## 林大生の活動報告

### 長野林大が逆転で「第9回全国林業大学校対抗伐木選手権」の「総合優勝」(11月)

長野林大、岐阜県立森林文化アカデミー、京都府立林業大学校の3校が、学生同士の交流促進や一層の技術向上を目的に平成26年から持ち回りで開催している「伐木選手権」大会を、今年は当校がホスト校で11月16日、17日の2日間開催。初日は「街中ウォークラリー」などで交流。翌日の「競技会」は朝から冷たい雨が降りしきる中、種目毎に各校の総合順位が目まぐるしく入れ替わる熱戦となりました。最終種目の「伐倒競技」は、各校選手が持てる技術の限りを出し尽くす中で当校の選手が1位となり、「逆転で総合優勝」という劇的な結末となりました。前日準備から大会運営、片付けまで大活躍した1年生、最後まであきらめずに競技で戦った2年生全員の手で勝ち取った「総合優勝」でした。



交流を深めた街中ウォークラリー



みんなで勝ち取った「総合優勝」

### 寮祭 (木望祭) (10月7日)



学生自治会が懸命に準備を進めてきた寮祭を開催。当日は、数多くの地域の皆さまにもご来場いただき、出店(展)ブース、キッチンカー、学生のチェーンソーデモンストレーションなどで盛況でした。

### 雪灯りの散歩路 (2月2日~4日)



木曾路の冬の風物詩に、林大生はスタッフとして、アイスクャンドルの運搬設置から後片付けまで3日間を通じて参加。寒い中でしたが、冬ならではのイベントを楽しみました。



林大HP



facebook



instagram



■事務局 長野県林業大学校内  
〒397-0002  
長野県木曾郡木曾町新開4385-1  
TEL 0264-23-2321  
FAX 0264-21-1058